

# 「中曾根大学」一一に騒然

高木正幸



安生君死のリンチ事件で立上がりた拓大生たちは「運動部のひずみ」といった俗論を吹飛ばし、リンチの背後の拓大総体、その背後の体制総体を告発している。

(写真・学内デモの学生たち。遠まきに眺める人垣の中に体育系学生がいる)

七〇年の伝統と因習が、彼の死を招いた

このリンチを目撃した学生は、「許してくれ」と、はいつくばって頭を下げる安生君に「この野郎」と、四〇分にわたって暴虐がつづけられたと述べている。  
(『週刊朝日』七月三日号)。すさまじい「死のリンチ」を受けたときの安生君の恐怖は、どれほどのものであつたろう。

良作君(十九)に対する、空手愛好会「拓忍会」のメンバー三人のリンチは、凄惨をきわめた。六月一五日、栃木県鹿沼市から上京して来た父親を伴つてまで退部を願い出た安生君に、一三人がかかるがわる、突き、蹴りの「退会式」の乱取りつさせる拓大生の高揚は、リンチ事件をもたらす。「輝ける星」中曾根康弘防衛府長官を総長にいたたく拓大的な学生たちは、リンチ事件が明るみに出て以来、学内で集会、デモを繰りひろげ、数日にし「拓大闘争」によって、七〇年代大学闘争の転機をつくる」(六月二五日、自治会臨時執行部の記者会見で)とまでに高まつた。二〇億円の使途不明金問題をバネとして起つた日大闘争の初期をほうふつさせる拓大生の高揚は、リンチ事件をもたらす。「輝ける星」中曾根康弘防衛府長官を総長にいたたく拓大的な学生たちは、リンチ事件が明るみに出て以来、学内で集会、デモを繰りひろげ、数日にし「拓大闘争」によって、七〇年代大学闘争の転機をつくる」(六月二五日、自治会臨時執行部の記者会見で)とまでに高まつた。二〇億円の使途不明金問題をバネとして起つた日大闘争の初期をほうふつさせる拓大生の高揚は、リンチ事件をもたらす。

## 死者を弔う高まり

大学闘争が一つのサイクルを終え、大學が世間の耳目から遠のきつつある最中、空手愛好会メンバーのリンチ殺人事件が、これまで紛争と隔絶していた拓殖大学を、全国唯一の、ロックアウト大学におどり出させた。

自民党的「輝ける星」中曾根康弘防衛

「スポーツ団体の性格のゆがみ」「愛のムチの行過ぎ」とのみとらえた多くの論評が、いかに事柄を矮小化しているかを示した。

拓大生のさまざまのビラは一週間とともに歩んで来たことを誇りとする、拓大

入学後一ヶ月の拓大政経学部二年安生良作君(十九)に対する、空手愛好会「拓忍会」のメンバー三人のリンチは、凄惨をきわめた。六月一五日、栃木県鹿沼市から上京して来た父親を伴つてまで退部を願い出た安生君に、一三人がかかるがわる、突き、蹴りの「退会式」の乱取りつさせる拓大生の高揚は、リンチ事件をもたらす。

良作君(十九)に対する、空手愛好会「拓忍会」のメンバー三人のリンチは、凄惨をきわめた。六月一五日、栃木県鹿沼市から上京して来た父親を伴つてまで退部を願い出た安生君に、一三人がかかるがわる、突き、蹴りの「退会式」の乱取りつさせる拓大生の高揚は、リンチ事件をもたらす。

驚いた大學側は、安生君の死後三日、リンチを行なつた一三人と拓忍会会員長の計一四人を退学処分にし、「拓忍会」を解散させた。その翌日、中曾根綾長が安生君の実家を訪ね、遺族にわびて、弔慰金五〇〇万円を手渡した。

ぼくらが加害者だ

中曾根は……『拓忍会』を解散させ、会員を退学にするという極めて政治的な処分をする事によって、自らの延命を保ち、同時に我々の虐殺抗議の闘いに対しては、一切の集会の禁止とロックアウトを以つて压殺せんとしているのだ」（学生のビラより）

だが、大学側のリンチ事件に対する素早い処置も、学生側の事件の受止め方とは、大きな隔たりがあった。学生たちはまず、大学側がリンチ事件を偶発的な出来事とし、リンチ学生の処分を事件処理の第一としたことに反発した。そして由曾根総長が就任以来うたつてきた「学生との対話」の約束を、はじめからかなづり捨て、安生君の死を追悼し、抗議する集会を「違法である」と、押しつぶそらとしたことに、憤りを高めていった。

「彼の死は拓大の諸矛盾を一点に集約するものとしてあり、彼を虐殺したのは拓大七十年の歴史が作りあげたところの非人道的な伝統、因習であり、そしてそれらを沈黙の内に容認して來たのは、私達自身ではないのでしょうか。その意味において私は安生君虐殺の加害者なのであります。ところが学校当局は今回の虐殺事件を一サーカル内における不祥事として問題を解消しようとしています。更には安生君虐殺抗議に立ち上った良識ある学友

す。ところが学校当局は今回の虐殺事件を一サーカル内における不祥事として問題を解消しようとしています。更には寄生君虐殺抗議に立ち上った有識ある学友に対し、学園の秩序を脅かす違法行為であるとして、正当な運動を虐殺しようと虎視眈々と狙っています」（大学当局）

## 執行部、体育系の退場

その後、連日千人以上の学生を集めて

民族的國際大學

東京・文京区小日向、地下鉄茗荷谷駅に近い拓殖大学。創立七〇年、学生約一万人。四二年九月、中曾根康弘代議士が二代総長となつた。

開かれた集会は、大学側追及とともに「大学べつたり、体育系色」との不信が学生に根強かつた自治会執行部への追及も並行させた。「今回の事件は拓忍会だけの事件ではない。今までの因習を除けなかつた全学友の正義感の欠如であり、自治会の勇気のなさが原因だつた」と自己批判した自治会執行部だったが、学生たちは「その一方で、政治活動を許すなとか、拓大を安保の拠点にするなどとわめき騒ぎ、反革命的体质」（学生のビラより）と、攻撃した。

自治会執行部へのつき上げは、それまで大学内に一〇人あるいは二、三十人と潜んでいた反日共系の各セクト、日共系、ペ平連系などの学生が中心となつたといわれるが、一般学生も同調した。二日、自治会執行部が大学側の臨時休校措置に抗議して行なつた自主登校の学生大会は、同執行部のリコール集会とかわり、執行部員が「自己批判し、本日限り執行部は解散します」と退場した。

体育系学生もともに退場し、講長の呼びかけて壇上に上がつた三三人が新執行部員として、千人以上の学生の拍手と歓声をうけた。そして「学内暴力の根源である麗沢会（サークルの総合体）」の即時解散、「銃剣道愛好会、拓禪会その他学生を配られはじめた。「安生君の屍をのりこえて中曾根体制打倒へ！ 拓大反帝学評」「当局の『犯罪性』を告発する！ 平和と民主主義を擁護する会」「虐殺抗議、大衆団交要求、中曾根打倒 拓大全学学生会議（Z）」「何が安生君を殺したか！ 全学行動委員会」……。これまでビラに飢えていた拓大生は、むさぼるようになぞそれを読んだ。一方、次第に「あれがみえると、シーンとなつていた」と学生がいう体育系学生の高い詰めえり、ラップズボンの黒い制服姿が、集会の周辺から減つていった。

養成するという雄大な意図のもとにつくられた。アジアを復興し、日本を前進させせるための民族的な用意が企てられていた。爾来、拓大の歴史は国家と榮辱をともにして来た……そして今や……新しい意味において、日本がアジアや世界に雄

朝日ジャーナル

飛し、アジアや世界に奉仕し、文明を建設するために協力すべきときが来つつあるような気がする……我々日本民族の、民族的な国際大学は拓大しかないという

ことを銘記しなければならない。私はこのような信念を持つて、この大学を通じて国家に奉仕し、民族にもアジアにも世界にも奉仕したい、という気持ちが動いてきたのであります」。就任の講演で、中曾根氏は総長受諾の動機をこう述べた。

## セッセと総長講演

月一回の「総長講演」は、中曾根総長が学生への接近の手段として創案した、拓大独特の行事であった。「民主主義と暴力」「大学生と政治生活」「七〇年代の課題と自主防衛路線」「国際的武士道の形成」などをテーマとするその講演の中で、かれは繰り返し「拓大は国家と榮辱をともにしてきた」「民族的国際大学」を強調、「拓大協同体」を鼓吹した。

講演は毎回、政治問題にふれる。「吉

田、ダレスのじいさん方でつくったものに、日本がプラさがっているいまの状態に、青年諸君は満足しないのだ」と、新しい安保、防衛を説き、「核拡散防止条約に早く調印することの危険を……自民党の中では堂々と公言してブレーキをかけているのは、私一人です」と核問題を訴えた。あるときは国内政治について「公明党を敵側に追いやりることは……慎重を期さなければならん。共産党に対する民族的な幅広い国民戦線をつくっていくこ

とを政治家は常に考えなければならない」。

明治天皇と乃木大将の話や、「中曾根主計長」が戦時中、フィリピンで大活躍した話も、講談ふうに飛出す。天皇の前

で「拓大ではあいさつに『オス』と申します」とあります。そこで関係者は、もし女子

学生が多く入った場合には、彼女らがなんというだらうか、というのが問題になつております。おそらく『メス』というのではないかと思います」と話して、天皇を笑わせたことも漫談ふうに語る。

が、中曾根総長は「総長講演」をまた学生運動策に、十分活用した。「諸君

はまだ学生であるから、政治的な実践運動、たとえば三派全学連のような過激な運動に入つてはいかん」「デモをするとか政治行動をする場合には、拓大といいう名前を使うべきではない」「学内における政治活動は、原則として禁止されるべきだらうと私は思っています」。

終つたあと、毎回パンフレットにして学生に配られる「総長講演」とともに、

知名の士を招いての、一週一回の「特殊講義」も、中曾根総長発案のものであ

る。今東光、石原慎太郎、林房雄、永野重雄、五島昇、萩原吉太郎氏などが、特別講師として名を連ねる。今年は秦野哲

が芽えをみた学園民主化闘争への体育系学生の「右翼的暴力」がそれである。

そして「拓大協同体」の秩序は、明らかにこれら体育系学生の暴力に支えられて

栄辱とともにしてきた」拓大が、なお國家、体制、政治と密接に結びついた道を歩んでいることがうかがえる。

## 麗沢会体制

学内では、中曾根総長が常にうたう「拓大協同体」を象徴する組織として、

これまで特異な「麗沢会」が存在する。

その規約によると「麗沢会」は、学生、教職員、賛助会員（拓大OB）で組

織され、総長を会長として、総務局、文化局、体育局の三局がその下にあり、

サークルがこの三局に所属する。大学組

織と並行して、これを吸収する形でOB

運動に入つてはいかん」「デモをするとか政治行動をする場合には、拓大といいう名前を使うべきではない」「学内における政治活動は、原則として禁止されるべきだらうと私は思っています」。

終つたあと、毎回パンフレットにして

学生に配られる「総長講演」とともに、

知名の士を招いての、一週一回の「特殊

講義」も、中曾根総長発案のものであ

る。今東光、石原慎太郎、林房雄、永野

重雄、五島昇、萩原吉太郎氏などが、特

別講師として名を連ねる。今年は秦野哲

が芽えをみた学園民主化闘争への体育

系学生の「右翼的暴力」がそれである。

そして「拓大協同体」の秩序は、明らか

にこれら体育系学生の暴力に支えられて

いた。国家意思の教學への貫徹と、それ

批判するが、「総長講演」の内容をみて

反抗する学生への弾圧形態、その先兵

も、特別講師の顔ぶれをみても「国家と

生常任委員六人の半数は、学生自治会の役員が占めることになつていて。予算、人事を通して、事実上麗沢会の構成団体になつていていることである。

学生の掲示、集会などは学則第四章によつてきびしく「許可制」と規定され、サークルやゼミはあっても、他の大学の度は拓大ではない。このような仕組みから、学生自治会が総長一大学側にコントロールされ得ることは当然であり、学生たちがその執行部を辞職に追込んだことはうなづける。

安生君死亡事件で麗沢会はさらに欠陥をさらけ出した。「拓忍会」や、それとともに「拓大三派」と一般学生から恐れられた、麗沢会の一つの大きな問題点は、学生自治会との関係にある。学生自治会は建前としては別組織だが、麗沢会の学

生常任委員六人の半数は、学生自治会の役員が占めることになつていて。予算、人事を通して、事実上麗沢会の構成団体になつていていることである。

学生の掲示、集会などは学則第四章によつてきびしく「許可制」と規定され、

サークルやゼミはあっても、他の大学の度は拓大ではない。このような仕組みから、学生自治会が総長一大学側にコントロールされ得ることは当然であり、学生たちがその執行部を辞職に追込んだことはうなづける。

安生君死亡事件で麗沢会はさらに欠陥をさらけ出した。「拓忍会」や、それとともに「拓大三派」と一般学生から恐れられた、麗沢会の一つの大きな問題点は、学生自治会との関係にある。学生自治会は建前としては別組織だが、麗沢会の学

生常任委員六人の半数は、学生自治会の役員が占めることになつていて。予算、人事を通して、事実上麗沢会の構成団体になつていていることである。

学生の掲示、集会などは学則第四章によつてきびしく「許可制」と規定され、

サークルやゼミはあっても、他の大学の度は拓大ではない。このような仕組みから、学生自治会が総長一大学側にコントロールされ得ることは当然であり、学生たちがその執行部を辞職に追込んだことはうなづける。

安生君死亡事件で麗沢会はさらに欠陥をさらけ出した。「拓忍会」や、それとともに「拓大三派」と一般学生から恐れられた、麗沢会の一つの大きな問題点は、学生自治会との関係にある。学生自治会は建前としては別組織だが、麗沢会の学

生常任委員六人の半数は、学生自治会の役員が占めることになつていて。予算、人事を通して、事実上麗沢会の構成団体になつていていることである。

学生の掲示、集会などは学則第四章によつてきびしく「許可制」と規定され、

サークルやゼミはあっても、他の大学の度は拓大ではない。このような仕組みから、学生自治会が総長一大学側にコントロールされ得ることは当然であり、学生たちがその執行部を辞職に追込んだことはうなづける。

安生君死亡事件で麗沢会はさらに欠陥をさらけ出した。「拓忍会」や、それとともに「拓大三派」と一般学生から恐れられた、麗沢会の一つの大きな問題点は、学生自治会との関係にある。学生自治会は建前としては別組織だが、麗沢会の学

生常任委員六人の半数は、学生自治会の役員が占めることになつていて。予算、人事を通して、事実上麗沢会の構成団体になつていていることである。

学生の掲示、集会などは学則第四章によつてきびしく「許可制」と規定され、

サークルやゼミはあっても、他の大学の度は拓大ではない。このような仕組みから、学生自治会が総長一大学側にコントロールされ得ることは当然であり、学生たちがその執行部を辞職に追込んだことはうなづける。

安生君死亡事件で麗沢会はさらに欠陥をさらけ出した。「拓忍会」や、それとともに「拓大三派」と一般学生から恐れられた、麗沢会の一つの大きな問題点は、学生自治会との関係にある。学生自治会は建前としては別組織だが、麗沢会の学

## つみとられ続けた芽

ここで注目されるのは、拓大の体育系学生の暴力が単なる暴力というより、その多くが、ある一定の方向に向つて動いているという事実である。これまで幾度か芽えをみた学園民主化闘争への体育系学生の「右翼的暴力」がそれである。

拓大生が記録する「弾圧と闘争の歴史」は次のようなものであった。

（第一次民主化闘争）四二年六月二九日、学生約二〇〇人が学生会館の設立、

クラス制度の確立など一一項目を要求、本館前にすわり込むが、夜九時ごろ、拓

会、右翼学生など七、八十人が日本刀をもつて「たたき殺すぞ」とおどした。

三〇日、体育系学生が自治会室を占拠、

内部を荒した。

〈社研・現代政治研究同好会事件〉四三年一月一日の学園祭で、社会科学研究会が赤い社研会旗を展示場に掲げ「学園民主化の旗のもと、すべての学友は团结せよ」と黒板に書いたところ、学生とOB數人が入ってきて次々になぐりつけ「頭を冷やしてやる」と学園内の麗沢湖に四人を連れていて中に押入れ、水の中で「オス」を五〇回ずつ言わせた。一方、現代政治研究同好会の部屋にも学生服の学生が来て、展示物を荒した。

麗沢会発行)の四四年四月号の、社会科学研究同好会の紹介記事の中の九ヵ所が、いつの間にか次のように空白となつていて了。「拓大キャンパスに総結集した二千の新入生諸君

右翼 学 生を打倒し、学園の民主化を勝ち取る闘い……」「四十三年は『大学の年』と呼ばれた。、闘争を初めとして……」この「扶桑」第一〇号は発行直後に大学学生部に回収された。

〈第二次民主化闘争〉「扶桑」事件、小泉君処分事件をきっかけとして、同年五月八、九、一二日と学内青空集会が開かれ、数百人の学生が右翼暴力学生追放、議会の東大七学部集会場(秋父宮ラグビー場)にむかって行動したことに関連して、凶器準備集合罪の嫌疑により神宮球場前にて検挙され、一月二十二日に起訴となつた。他大学の秩序を乱す行動に参加し、暴力否定の理念に徹すべき大学教員、OBなど約一〇人が来て、集会を中心させ、東大結集を呼びかけたパンフレットを配った役員の足を蹴り、首をつかんで連れてゆこうとした。学生はトイレへ行くにも後をつけられて軟禁状態になり、議事を全部終らぬまま閉会した。

（扶桑）事件、学内誌「扶桑」(自治会、集会で「全学行動委員会」が旗上げする。この日のなぐり込み事件で大塚署は同君は後に、無届けの学内集会を指揮しての本分にもとる行為であるから学則により処分する」と無期停学に処された。

集会で「全学行動委員会」が旗上げする。この日のなぐり込み事件で大塚署ははじめ約二〇〇人だった学生が終りには約千人にふくれ上がる。大学側は門を閉鎖して、デモの構内進入をばんだ。

大塚公園で抗議集会。同二〇日、新大塚公園で全学総決起集会、大学までデモ。

八月から九月にかけ、立教大などで全

学行動委、学年代表などの集会を開き、

一〇月七日、教育大横公園で全学回答要

求総決起集会。大学へ向け約二〇〇人が

デモをするが、警官隊の規制をうける。

一〇月一五、一六、一七日、学内青空

集会、同二二日、大ホールで抗議集会。

同二四日、教授会強制集会、初の学内デ

モ。通用門前でビラを配っていた学友

に、右翼系がなぐり込んだ。

服の銃剣道愛好会のメンバーが、工事用

鉄パイプ、木刀などをもつてなぐり込

み、三人が重傷で入院、十五、六人がケ

ガをした。

この日のなぐり込み事件で大塚署は

はじめ約二〇〇人だった学生が終りには

約千人にふくれ上がる。大学側は門を閉

鎖して、デモの構内進入をばんだ。

大塚公園で抗議集会。同二〇日、新大塚

公園で全学総決起集会、大学までデモ。

八月から九月にかけ、立教大などで全

学行動委、学年代表などの集会を開き、

一〇月七日、教育大横公園で全学回答要

求総決起集会。大学へ向け約二〇〇人が

デモをするが、警官隊の規制をうける。

一〇月一五、一六、一七日、学内青空

集会、同二二日、大ホールで抗議集会。

同二四日、教授会強制集会、初の学内デ

モ。通用門前でビラを配っていた学友

に、右翼系がなぐり込んだ。

この日のなぐり込み事件で大塚署は

はじめ約二〇〇人だった学生が終りには

約千人にふくれ上がる。大学側は門を閉

鎖して、デモの構内進入をばんだ。

大塚公園で抗議集会。同二〇日、新大塚

公園で全学総決起集会、大学までデモ。

八月から九月にかけ、立教大などで全

学行動委、学年代表などの集会を開き、

一〇月七日、教育大横公園で全学回答要

求総決起集会。大学へ向け約二〇〇人が

デモをするが、警官隊の規制をうける。

一〇月一五、一六、一七日、学内青空

集会、同二二日、大ホールで抗議集会。

同二四日、教授会強制集会、初の学内デ

モ。通用門前でビラを配っていた学友

に、右翼系がなぐり込んだ。

この日のなぐり込み事件で大塚署は

はじめ約二〇〇人だった学生が終りには

約千人にふくれ上がる。大学側は門を閉

鎖して、デモの構内進入をばんだ。

大塚公園で抗議集会。同二〇日、新大塚

公園で全学総決起集会、大学までデモ。

八月から九月にかけ、立教大などで全

学行動委、学年代表などの集会を開き、

一〇月七日、教育大横公園で全学回答要

求総決起集会。大学へ向け約二〇〇人が

デモをするが、警官隊の規制をうける。

一〇月一五、一六、一七日、学内青空

集会、同二二日、大ホールで抗議集会。

同二四日、教授会強制集会、初の学内デ

モ。通用門前でビラを配っていた学友

に、右翼系がなぐり込んだ。

この日のなぐり込み事件で大塚署は

はじめ約二〇〇人だった学生が終りには

約千人にふくれ上がる。大学側は門を閉

鎖して、デモの構内進入をばんだ。

大塚公園で抗議集会。同二〇日、新大塚

公園で全学総決起集会、大学までデモ。

八月から九月にかけ、立教大などで全

学行動委、学年代表などの集会を開き、

一〇月七日、教育大横公園で全学回答要

求総決起集会。大学へ向け約二〇〇人が

デモをするが、警官隊の規制をうける。

一〇月一五、一六、一七日、学内青空

集会、同二二日、大ホールで抗議集会。

同二四日、教授会強制集会、初の学内デ

モ。通用門前でビラを配っていた学友

に、右翼系がなぐり込んだ。

この日のなぐり込み事件で大塚署は

はじめ約二〇〇人だった学生が終りには

約千人にふくれ上がる。大学側は門を閉

鎖して、デモの構内進入をばんだ。

大塚公園で抗議集会。同二〇日、新大塚

公園で全学総決起集会、大学までデモ。

八月から九月にかけ、立教大などで全

学行動委、学年代表などの集会を開き、

一〇月七日、教育大横公園で全学回答要

求総決起集会。大学へ向け約二〇〇人が

デモをするが、警官隊の規制をうける。

一〇月一五、一六、一七日、学内青空

集会、同二二日、大ホールで抗議集会。

同二四日、教授会強制集会、初の学内デ

モ。通用門前でビラを配っていた学友

に、右翼系がなぐり込んだ。

この日のなぐり込み事件で大塚署は

はじめ約二〇〇人だった学生が終りには

約千人にふくれ上がる。大学側は門を閉

鎖して、デモの構内進入をばんだ。

大塚公園で抗議集会。同二〇日、新大塚

公園で全学総決起集会、大学までデモ。

八月から九月にかけ、立教大などで全

学行動委、学年代表などの集会を開き、

一〇月七日、教育大横公園で全学回答要

求総決起集会。大学へ向け約二〇〇人が

デモをするが、警官隊の規制をうける。

一〇月一五、一六、一七日、学内青空

集会、同二二日、大ホールで抗議集会。

同二四日、教授会強制集会、初の学内デ

モ。通用門前でビラを配っていた学友

に、右翼系がなぐり込んだ。

この日のなぐり込み事件で大塚署は

はじめ約二〇〇人だった学生が終りには

約千人にふくれ上がる。大学側は門を閉

鎖して、デモの構内進入をばんだ。

大塚公園で抗議集会。同二〇日、新大塚

公園で全学総決起集会、大学までデモ。

八月から九月にかけ、立教大などで全

学行動委、学年代表などの集会を開き、

一〇月七日、教育大横公園で全学回答要

求総決起集会。大学へ向け約二〇〇人が

デモをするが、警官隊の規制をうける。

一〇月一五、一六、一七日、学内青空

集会、同二二日、大ホールで抗議集会。

同二四日、教授会強制集会、初の学内デ

モ。通用門前でビラを配っていた学友

に、右翼系がなぐり込んだ。

この日のなぐり込み事件で大塚署は

はじめ約二〇〇人だった学生が終りには

約千人にふくれ上がる。大学側は門を閉

鎖して、デモの構内進入をばんだ。

大塚公園で抗議集会。同二〇日、新大塚

公園で全学総決起集会、大学までデモ。

八月から九月にかけ、立教大などで全

学行動委、学年代表などの集会を開き、

一〇月七日、教育大横公園で全学回答要

求総決起集会。大学へ向け約二〇〇人が

デモをするが、警官隊の規制をうける。

一〇月一五、一六、一七日、学内青空

集会、同二二日、大ホールで抗議集会。

同二四日、教授会強制集会、初の学内デ

モ。通用門前でビラを配っていた学友

に、右翼系がなぐり込んだ。

この日のなぐり込み事件で大塚署は

はじめ約二〇〇人だった学生が終りには

約千人にふくれ上がる。大学側は門を閉

鎖して、デモの構内進入をばんだ。

大塚公園で抗議集会。同二〇日、新大塚

公園で全学総決起集会、大学までデモ。より再度にわたる質問を受けても「事件に関する質問を受けても『事件にかかわる問題を抱いていた』といった評論を述べた。また、美術評論家でもある著者の書いたいきいきとした評論13編。写真多數

SD

7月号 ¥550

特集①

大学キャンバス論

④大学計画に関する覚え書き

D.H.カーンワイス著

千足伸行訳

六九〇円

特集②

都市高層ホテル

—帝国ホテル／プラザホテル他

建築は動くのだ！

コラム特集●今日の展覧会

第10回日本国際美術

展・SDコラム●現代芸術の底流⑦人間と機械／風呂屋の壁画・他

わが国で最初の  
社会科学の大事典

社会科学大事典・全20巻 第14巻＝好評発売中！

各三、五〇〇円／既刊10巻セット三五、〇〇〇円

島出版会 東京都港区赤坂6-5-13

ヨリヤナル

初の学外デモはじめ、第二次民主化闘争が最高の盛上りをみせた昨年六月、中曽根総長は「親愛なる拓大生諸君」と呼びかける自筆の毛筆の書簡を印刷にし、全学生に配布した。

「拓大が東大の真似をすることはナンセンスであるし……一部学生の学園秩序無視の行動は、秩序のもとに復帰しなければならない……世間的には拓大の評価は『紛争のない最後の大学』というところ

体育系保護の果てに

安東義良前総長は四二年四月、応援団「押忍」に「私大の応援団は愛校性に富み、良識の豊かな学生の団体であるから、自校学風の危機に臨んでは、学風の維持、擁護のため破壊的な学生運動を制御するのに立上るべきではないだろうか」と書いた。学生の記録によれば、昨年六月、学外デモが行われた際、学生部長はマイクで校内にこう呼びかけた。「全共闘の暴力集団がヘルメットに鉄バットとゲバ棒を持つて来る。拓大を愛するすべての学友は彼らを阻止せよ」そして中曾根総長もまた「総長講演」の中で「八幡製鉄の藤井副社長や、あるいは東京電力においても、日本航空においても、一流会社から拓大の運動部のキャラクテンを採用したいといつてこられてゐるのであります」と述べ、「オス」というあいさつについて「拓大に入るとみんな『オス』『オス』というけれども『オス

ス」で結構だ。どんどん『オス』といなさい」と奨励した。

体育系学生には、推薦入学や授業料の減免などの恩典があり、「練習で勉強山登りなかつたと申出れば、単位を簡単にくれる」と学生たちがいう。自治活動、学外活動への処分はきびしいが、それにもぐり込んだりした体育系学生の処分は、ほとんどが最低の訓戒か、「被害届が出ないから」と、すまされている。また「長い歴史と実績から」体育各部への予算是、文化局の各部などにくらべて、はるかに潤沢であるといわれる。

このような体育系学生への保護、伸長政策が体育系学生を思い上がりさせ、横暴を招いたことは、いうまでもない。大学側の意思を受けて学内治安に働いていた体育系の暴力は、日常的な校内や寮での一般学生への暴力へとひろがり、「拓三派」といわれる暴力サークルの誕生をも

安生君の死は、いわばそのような拓殖の暴力的状況の集約として起つた。組織、教学を通して体育系学生を庇護し、学内治安に利用してきたとしかいよいよがない大学側に、その死に対する教唆頑動の罪はないのであろうか。

「大学当局」中曾根は、自らの野望（拓大をアジア学術センターに）を実現するため、強固な学内支配機構が必要であった。その暴力装置として右翼学生の存在価値があつたのだ。彼らは学内諸機構の中に君臨している右翼分子と緊密な連携をもちながら、学友会・応援団・体連という暴力装置を形成し、大学当局・中曾根の下に保護・育成されて來た。だからこそ大学当局・中曾根に反対する闘争は、ことごとく暴力的に圧殺されていつたし、それ故に我々は拓大内に彼らやクザダモの存在を許してしまつたのである。大学当局・中曾根こそ、安生君虐殺

（学生のビラより）  
大学—中曽根批判は『拓殖大学新聞』にも現れた。これまで「大学サイド」と評された同新聞は、安生君の写真を大きく載せた七月一五日号で「学生暴力団で『聖域』を与えたのは誰か」と、激しい大学批判に紙面を一新させた。  
「総長は時あるごとに『拓大はアカデミックな、国際大学として進みつつある』といふ。遠方の象牙の塔より、一般学生は足下の害虫の方が氣になるのである。各界有名人をよんでの講義にしたところ、それが単なる客観的な学生集めにちつていることは学生間で百も承知のことなのだ。そんなことよりも、現在の拓大がどのようなものか、それを知るべきである」「だいたい月に二、三度しか学内に姿を見せないというのは、総長といえども悪い。この機に中曽根右翼体制を粉砕すべきです」。

「あつた……この期待がうしなわれて心ある人々の失望はいかなるばかりのものとなるうか……我々は愛する拓大のため、国家社会の安定のために拓大を守り切らねばならない」

だが、中にちらつかせた「処分」の文句も、いつ来るかわからない体育系学生の襲撃に身体の危険をかけて立上がった学生には、脅しの効果をもつものでなかつた。

招いた。  
そして、四年一月、拓大OB、他大学生とともに、バリケード封鎖中の日大芸術学部へなぐりこんだ“関東軍”や、ことし五月の報知新聞争議で、ロツクアウト警備を行な

特価一八〇円 発売中

# アサヒクリエフ

## 7月10日号 特価一八〇円 発売中

### カラーフ写真による広島・長崎の原爆の記録

被爆25年、初めて公開されるカラー写真によつて、広島・長崎の惨禍を特集

▼カラーフ写真 ヒロシマ・ナガサキ一九四五年一九四六年  
崎をとらえた貴重な写真記録 ▼広島の爆心地で生残つた教師と教え子の25年  
▼原爆文献案内60選 ▼カラー写真とスケッチによる広島・長崎の原爆資料

## 压殺の論理と人間の論理

学生側の急速なエスカレートに狼狽し

た大学側は「安生君のご冥福を静かに祈るため……また追悼集会での混乱及び負傷者が発生したので、かような事故を未然に防止するため」と、二二日から三日間の臨時休校を決め「大学はこの事件をきっかけとして学内におけるすべての会、麗沢会（サークルの総合体）関係各部は勿論、愛好会その他学生寮、体育寮等に再検討を加え、新たに生れ変ることが必要である」などの声明を出し、学生の鎮撫に努めた。

だが一方で、千人以上の学生が承認の意思をはつきりとみせた自治会新執行部に対し「正規の手続きを踏んだものではなく、執行部として認められない」（記者会見で中曾根総長）とつばね、刃り、ラッパズボンの学生たちが「帰れ、おまえら」と人垣をつくった。「ようとする傾向が顕著である」（同）と、

非難を浴びせた。

二三日「安生君の死を無駄にせず、大學に自由と平和を取り戻そう」と、学生が次々に壇上に立った自治会新執行部主催の初抗議集会に、大学側はマイクで「違法な集会をやめなさい」と絶え間なく繰返した。学生側はワーケーションでこれを対抗し、校舎二階のベランダなどにみえる体育系学生や、拓忍会とともに「拓大三派」と恐れられているカーキ色の服の銃剣道愛好会のメンバーに「帰れ」「帰れ」と唱和した。

だが一方で、千人以上の学生が承認の意思をはつきりとみせた自治会新執行部に対しては「正規の手続きを踏んだものではなく、執行部として認められない」（記者会見で中曾根総長）とつばね、刃り、ラッパズボンの学生たちが「帰れ、おまえら」と人垣をつくった。「ようとする傾向が顕著である」（同）と、

合意の中から教職員が、丸刈りの学生に声をかける。「なぐると傷がつくからな。毒殺かなんかやるか」とその学生。その後、展開された数百人の学生のデモに、二三百人の体育系学生がおそいかかり、もみ合い。二階にいたカーキ色

モニ、二三百人の体育系学生がおそいかかり、もみ合い。二階にいたカーキ色の銃剣道愛好会の学生の一人が、その服をぬぎすぎて下にかけおりてくる。ぶし、足蹴り。「一般学生は挑発にのらなで下さい」。大学側のマイクは、体育系学生を一般学生と名ざして、叫んだ。

対策に行詰った大学側は三日間の臨時休校最終日の二四日、無期限の休校を決

め、教職員以外の校内立入りを一切禁止した。

教職員組合もない拓大的教授会は、大

学闘争の中で暴露された教授会の「大学当局の飼犬」的性格を、さらに強く保持しているように見える。大学側のロックアウト措置に抗議して辞表を出した商学部の原ひろ子助教授（文化人類学）は、

「私と同じ意見の人も少なくなかつた。し

かし、教授会の内容を学生にもマスコミ

## 書選著名

●7月末発売予約募集中

# マニエリスム全3巻

（上巻）一、八〇〇円

（下巻）一、九〇〇円

（写真三三三枚（中巻）式と内容との関連を明らかにする。

アーノルド・ハウザー著／若桑みどり訳

## 現代に蘇えるマニエリスムのすべて：

本書は、旧来寸断されてきた文学と美術、社会構造と文化、実証研

究

と概念の追求を通して近代芸術の根源を探る。

かつて刊行され

たマニエリスム研究書のうち、もつとも問題ゆたかな、あますところなくその特質をとらえた総合的大著である。

まず第一部ではルネサンスにおける科学的・世紀観の出現、経済的・

社会的変革、宗教活動と政治理念の革新についてすぐれた考察を行

いマニエリスム理解の鍵としての疎外とナルシシズムという二概念

を提出する。また第二部ではマニエリスム絵画について多数の図版

を用いて鋭利な分析を加える。さらにヨーロッパ諸国代表的文学

式と内容との関連を明らかにする。

## 既刊11巻内容見本

### 岩崎美術社

東京都千代田区神田神保町1-65

振替 東京90649 電(291)3121-4

にもしやべるな、と口止めされた。過去の教授会でも、大学改善のため積極的に発言してきたが、善処しますというだけで、全く大学の政策に反映してこない」と語った。「問答無用でロックアウトするという態度は、退部するものにリンチを加えるのと本質においてなんらかわりない」と憤るのである。

とくに学生の怒りを買ったのは、中曾根総長のやり方であった。「総長室へ来てもらいたいのであります」「できるだけ諸君と対話したいと思っている」と述べた就任あいさつでの言葉が、ヨロイをかくすコロモにすぎなかつたことを暴露したからである。

## だれが暴徒か

無期限ロックアウトを発表する砂防会館での記者会見で、中曾根総長、三代川正一学生部長ら大学側は、再び改革に立上がりを学生について「暴力学生キャンペーン」に力を入れた。「過激派学生のグループが前面におどり出て、主導権をにぎらうとしている」(中曾根総長)、「集会に」一般学生は全く出てきていない。セクトを中心にして関心のある学生さん(が集っている)」(三代川学生部長)。

大学闘争は、人間として、良心としての要求を提起する学生を「暴徒」扱いにして虐殺する「秩序」という名の巨大な暴力を、われわれにみせつけた。だが、それは同時に、大学一体制側が、学生の

真摯な要求を理解する能力を持合わせてないことを、知らせるものであった。中曾根総長らの記者会見も、すでに拓大当局が学生の要求に対処し得る力量を失っていることを、十分におわせた。

拓大にセクトがあるにしても、千人あるのは二千人集つた学生のすべてを、セクトかセクトに関心をもち、あるいはそれにはひきずられているとする見方は、だれがみても明らかな偏見であり、安生君の死を生んだ大学の状況に対する認識と反省を全く欠くものであった。たどたど手な集会運営。「あれをみても、ほんもののセクトの活動家が何人もいると思う方がどうかしている」と、ある記者が学校側をヤニした。

記者会見で中曾根総長はまた「運動部、体育系学生が一般学生に暴力や圧力を加えていることは明らかようだが」という質問に、「聞いている限りそんなことはない。体育会は割合、統制がそれているし……武道をやっている連中はそういうことを教えられているんですよ、礼儀作法を」と答えた。三代川学生部長は「体育会にそういうことは全くない」とまで、いいきつた。

一方で改革に立上がりを多くの学生を「過激派学生」ときめつけながら、安生君リンチ殺人事件の素地として、各方面からその日常的な暴力、威圧が指摘されている体育系学生を、積極的に弁護する。そうだとすれば、大学側が「(女生

君の事件について)その責任を深く痛感し……この事件をきっかけとして、学内におけるすべての会、各部はもちろん、中曾根総長らの記者会見も、すでに拓大愛好会その他学生寮、体育寮に再検討をついていることを、十分におわせた。

拓大にセクトがあるにしても、千人あるのは二千人集つた学生のすべてを、セクトかセクトに関心をもち、あるいはそれがみても明らかな偏見であり、安生君の死を生んだ大学の状況に対する認識と反省を全く欠くものであった。たどたど手な集会運営。「あれをみても、ほんもののセクトの活動家が何人もいると思う方がどうかしている」と、ある記者が学